

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	新宿区立淀橋第四幼稚園
所在地	新宿区北新宿3-17-1

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近な自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など)

幼児は、園庭や併設小学校の校庭遊びが大好きである。その時は、必ず葉っぱや生き物などを見たり、取ったりして遊ぶ姿が見られる。小学校の併設という強みを生かして、様々な環境や人と関わりながら、身近な自然についてより興味・関心を深めていきたい。

2. 活動スケジュール

令和7年4月～令和8年3月(1～2週間に1回位)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

<子どもたちが日々の遊びの中で、自由に自然と関わり遊べるように>

○虫取りかご、虫取り網、プラスチック容器、ビニール袋、雑草園(手を付けていないプランター)など

<子どもたちが自然とじっくり関われるように>

○飼育ケース、虫眼鏡、タブレット、タブレット用拡大鏡、図鑑、絵本、 など

<自分たちで植物や野菜を育てるために>

○土作り…ブルーシート、シャベル、ふるい、土のリサイクル材 ○栽培活動…苗・種・ジョウロ

<園での飼育物を育てるために>

○モルモット…餌、ゲージ、ほうき など ○カブトムシなどの昆虫…飼育ケース、昆虫マット、餌、霧吹き

<遊びや活動の振り返りのために>

○タブレット、プロジェクター、スクリーン、模造紙、写真用紙、ペン

<幼稚園にもっと虫たちが遊びにきてくれるように>

○「あめんばいけ」作り…たらい、砂利、エアポンプ ○「ダンゴムシマンション」作り…落ち葉、枯れ枝

○「ちようちようこうえん」作り…明日葉・パンジー・ホトトギス・キバナコスモス・キャベツなど

○「むしむししょうちえん」作り…すすきの苗 など

<昆虫や生き物の製作などから表現活動ができるように>

○空き箱、色画用紙、ガムテープ、ビニールテープ、カラーポリ袋、ペン、輪ゴム、京花紙、不織布、版画 など

<幼稚園の生き物コーナーがみんなに分かるように>

○看板作り…木の板、ペンキ、ニス、ノコギリ、クギ、トンカチ、水性顔料マーカー

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

日々の遊びの中で、自然と関わるができる環境作りを大切に、その中で子どもたちの興味・関心が広がるように援助をしてきた。講師の先生と一緒に園庭・屋上・校庭探検をする中で、疑問が解決したり、新たな知識を教えていただいたりすることで、より知的好奇心が深まるようにしてきた。

また、子どもたちだけでなく、親子活動も取り入れることで、家庭でも園の取り組みを知っていただき、一緒に取り組むように意識した。

○講師の先生との園庭・屋上・校庭探検…年6回（内1回は保育者向け講話、1回は親子活動）

○日々の遊びの中での虫探し、虫取り、自然探し

○雑草や花、木の実を使った製作活動（ごちそう、おべんとう、色水、アクセサリー、モビール など）

○モルモット・カメの飼育、カブトムシ、ダンゴムシ、カタツムリなどの飼育

○野菜・植物の栽培、栽培した野菜を食べる、種を取る

○昆虫や生き物の製作、表現活動

○砂場遊び、氷遊び、雪遊び

○あめんぼいけ作り、ダンゴムシマンション作り、ちょうちょうこうえん作り、むしむしちょうちえん作り

○幼稚園の虫コーナーの看板作り

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

<講師の先生と園庭・屋上・校庭探検の時>

「先生見て」「これは何？」と、保育者だけでは分からないことも、講師の先生に率先して聞いていた。遊びの中でも「佐々木先生が言ってたね」「これ、○○だよ」と教えていただいたことをよく覚えて遊びの中に活かしていた。また、回数を重ねることで、図鑑などで調べても分からないことがあった時は、「次、佐々木先生に聞いてみよう！」と、『先生に聞きたいこと』をまとめていた。

<昆虫の飼育>

昆虫が大好きな子どもたち。園庭や校庭で見つけた虫を幼稚園で飼いたいと、保育室に持ってくる。「飼うためには、おうちやごはんが必要だね。」と保育者が伝えると、飼い方図鑑をもってきて、保育者と一緒に見ながら、必要なものを準備した。毎日、霧吹きで水をあげたり、ダンゴムシには落ち葉、カタツムリには家庭から持ってきた野菜の切れ端をあげたりして世話をしていると、カタツムリの卵やダンゴムシの赤ちゃんが産まれた。驚きと共に「かわいい！」と子どもたちは、虫眼鏡を使いながらよく見ており、より愛情が深まった。

<製作活動や表現活動を通して>

4歳児の運動会での表現活動では、大好きなダンゴムシに変身して、一本橋を渡ったりリズム表現をしたりした。普段は、観客の前での表現活動が苦手な幼児も、大好きなダンゴムシになることで、楽しんでいた。ダンゴムシになりきるためのアイテム作りでは、「ダンゴムシの足は14本なんだよ」「メスには点々があるんだよ」と今までの知識を思い出しながら、自分なりのダンゴムシを作り、普段の遊びの中でも大切にしながら使っていた。

<活動の様子>



5. 振り返り

○保育者の意識のもち方、環境の工夫ひとつで、子どもたちの興味・関心がぐっと高まったり、より深く知ろうとする姿が多くみられることが分かった。それは、保育者に知識があることが重要なのではなく、子どもと一緒に「すごい！」「なんでだろう」「不思議だね」と、わくわくする気持ちをもつことの方がより大切なのだと実感した。また、子どものつぶやきや発言にこそ、私たち保育者が学ぶべきことがたくさん詰まっていることも実感した。そして、それを見逃さず、より深めたり友達につなげたりして、タイミング良く生かしていくことが、保育者の大切な役割の一つだということも分かった。

○子どもが夢中になり「こうしてみたい」「どうなるだろう」「できた」という思いの中で遊んでいると、本当に数時間、数日続けて遊んでいる姿が多くみられた。テーマである「身近な自然」ということも大きいと思われるが、小学校とは異なり時間割のない幼稚園だからこそ、子どもたちの実態に合わせた時間や場所の確保を大切に、より多く夢中になって遊ぶことを積み重ねていきたい。

以上